

## 集団 1

# 気に入らないとすぐに噛んだり叩いたりするのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※うまく言葉で自分の気持ちを伝えるのが難しいのかも？



- 他には . . .
- \* (ゲームなど) ルールが分からないのかも？
- \* 嫌なことがあってイライラしているのかも？
- \* 他の子の気持ちが分からないのかも？
- \* 言葉の発達が遅れているのかも？

### 支援のポイント

その場から離し、本人が落ち着ける場所へ連れて行きます

### 環境設定の工夫のポイント

- 意思表示ができる伝言カードを作っておきます。
- 別の部屋の一角に刺激の少ない避難スペースをつくっておきます。
- 持っていると安心できるグッズを置いておきます。
- 危険なものを遠ざけ、二次的な事故を防ぎます。

### 関わり方のポイント

- その場所・相手が視覚に入らない場所まで移動します。
- 緊張をゆるめ、嫌な気持ちをかえることができるよう、リラックスの方法を考えます。
- 叩く以外の意思表示について、絵などで分かりやすく穏やかに伝えます。
- 手をあげそうな場面で事前に止められるよう、よく観察します。

### 家族との連携のポイント

- 自宅で困っていること、不安に思っていること、家庭での工夫を聞いてみます。
- その子が落ち着きやすいグッズなどがあれば、お守り代わりに持ってきてもらいます。
- 気持ちを静める方法を一緒に探します。



気分転換をはからせます。

V

支援のポイント  
と対応(Q&A)



## 集団 2

# パニックを起こすのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※「何をすればよいか」  
「これから何が起きるの  
か」不安になったのかも？



- 他には . . .
  - \*見通しが崩れてしまったのかも？
  - \*つらい体験を思い出したのかも？
  - \*本人にとって嫌な音や匂いがあったのかも？
  - \*突然の変化があったのかも？
  - \*言葉で伝えられなかったからかも？

### 支援のポイント

落ち着ける場所に移動させ、気持ちを落ち着かせます

### 環境設定の工夫のポイント

- 目で見て確認できるものを使い、安心を促します
- カーテンで仕切る、別の部屋の一角に刺激の少ない避難スペースを確保するなど、その子が落ち着く環境を用意します。

### 関わり方のポイント

- 予定の変更があった時には、事前にその子に分かるように伝えます。
- 前兆（ウロウロ歩き回る、顔つきが変わるなど）の変化を見落とさないようにします。
- パニック時は安全を確認し、静かに見守り、終わった後に状況を伝えます。

### 家族との連携のポイント

- 普段から本人の苦手なものや嫌いなものなど、パニックを起こさないで済むよう家庭と情報を共有します。
- パニックの前兆についても、確認しておきます。



興奮のピークが過ぎるまで見守ります。

### 集団 3

## 他の子の物をもってきてしまうのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※自分の物と他人の物の区別がつかないのかも？



- 他には . . .
  - \*とってはいけないということが分かっていないのかも？
  - \*衝動性が強くて、もってきたのかも？
  - \*拾った物を自分の物としているのかも？

#### 支援のポイント

自分の持ち物が目で見て分かるような工夫をします

#### 環境設定の工夫のポイント

- 自分の持ち物が分かるように、同じマークのシールを貼っておきます。
- 置きやすい場所、取りやすい場所を設定します。(例えば、端の方など)
- 物には、持ち主がいることを普段から伝えるようにします。

#### 関わり方のポイント

- どんな時に、どんな物を持ってきてしまうのか、その子の行動を注意深く観察しましょう。
- 一方的に注意するのではなく、「してはいけないこと」、「しなければならないこと」を本人に気づかせることが重要です。そして、相手にあやまることをていねいに教えます。その際、絵カード、写真などを使い視覚的に分かるように教えましょう。

#### 家族との連携のポイント

- 園での持ち物の確認方法を伝えます。
- 片付けする際に、親子で通園バックの中身を一緒に片付けながら確認してもらうよう、一緒に根気強く取り組みます。
- 家庭や外出時の様子についても情報を得ます。



支援のポイント  
と対応(Q&A)



## 集団 4

# 椅子に座っていられず、保育室を出て行って、ウロウロするのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※集団が苦手で、その場に居ることができなくて、出て行ったのかも？



- 他には . . .
  - \*気になるものが目に入り、衝動的に保育室を出て行ったのかも？
  - \*刺激を求めて動くのかも？
  - \*刺激となる音に耐えられなかったのかも？
  - \*園でのルールが理解できていないのかも？

### 支援のポイント

外に出ていく原因を、その子の様子をよく見て想定してみることから始めましょう

### 環境設定の工夫のポイント

- 「今、何をすればよいか」、絵カードや写真などを使い視覚的に示します。
- その子が座る場所を考慮しておきます。(ex. 先生の近くの席など)
- 外のものが気になり飛び出す場合は、カーテンを閉め、目に入らないようにします。
- 保育室の一角にその子が落ち着ける場所を準備します。

### 関わり方のポイント

- 『どんな時ウロウロするか』、反対に『ウロウロしないで教室で過ごせるのはどんな時か』、『どんな声かけをすると戻ってこられるか』など、子どもの行動パターンや関わりを記録しておきます。
- 外に向かっていく子どもに「ダメ」「やめようね」など、しては行けないことだけを伝えるのではなく、例えば「座って〇〇をしてね」など、子どもにして欲しいことも同時に伝えます。

### 家族との連携のポイント

- 普段の様子を聞きます。
- 生活記録を共有します。
- 原因が感覚の問題であれば、イヤーマフの活用（※図）について紹介します。



## 降園

# いつまでたっても帰りたいがらないのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※「終わり」ということが分からないのかも？



- 他には . . .
  - \*何をすればよいか分からないのかも？
  - \*まだやりたいことがあるのかも？
  - \*分かっているけど切替ができないのかも？
  - \*何か嫌なことがあるのかも？

## 支援のポイント

終了の仕方・片付けの仕方を分かりやすくします

### 環境設定の工夫のポイント

- 他の園児と一斉にせず、その子のペースで取り組むことができるようにします。
- 荷物の確認ができるよう絵カードや写真等を作成し、帰りの支度を一人でできるようにします。
- 帰り支度（動作）のスケジュールをつくっておき、毎日同じ手順で行えるようにします。

### 関わり方のポイント

- 帰りの時間になる前に、どのくらいで終わるかを予告しておきます。
- 「帰る時間だから片付けようね」「バスに乗って帰る時間だね」とおしまいが分かるように声かけをします。

## 家族との連携のポイント

- 行動の切替ができれば、家庭でもほめてもらうよう伝えます。



「そうだね、帰りのバスに乗る時間だね。」



支援のポイント  
と対応(Q&A)



# 練習が始まると、情緒が不安定になるのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※いつもと予定が違うのが不安なのかも？



- 他には . . .
- \*大きな音や音楽が苦手なのかも？
- \*何が起きるのか不安なのかも？
- \*自分が何をすればいいのか分からないのかも？
- \*いつになったら終わるのか分からないのかも？

## 支援のポイント

どうすれば本人が安心して参加できるのか考えます

### 環境設定の工夫のポイント

- 何回練習するかを示しておきます。
- カレンダーに早目に記載し、予告します。
- 絵や文字の入った分かりやすいプログラムを作成し、進行状況が誰にでも分かるようにします。
- 出番や役割が分かるように、プログラムに印を付けます。

### 関わり方のポイント

- プログラムを見せながら指示します。
- 活動によっては先生と一緒に参加したり、子どもの組み合わせに配慮します。
- 練習風景を一度見せ、イメージができるようにします。
- 子どもを、音の少ない落ち着ける場所（部屋の隅など）で待てるようにします。
- 大きい音が出る太鼓などは、本人に叩かせてみる方法もあります。（予想がつく音は大丈夫だということがあります。）

### 家族との連携のポイント

- 普段と違っている状況の時期等を事前に説明し、理解を得ておきます。
- 得意なこと、好きな物、苦手な物の情報を共有しておきます。
- 子どもの成長や良いところを共有します。
- 練習で頑張っている様子を伝えます。



# いつもと違う場所に行くと、集団から離れてしまうのはなぜ？

子どもが困っている原因を考え、仮説をたてる

※これから起こることの予想がつかなくて不安なのかも？



- 他には . . .
- \*気になる物が目に入り、その場を離れるのかも？
- \*触覚刺激が過敏で手をつなぎたがらないのかも？
- \*空間的な境が分からないのかも？

## 支援のポイント

具体的な活動がイメージできるように事前学習をします

### 環境設定の工夫のポイント

- 急に道路に飛び出すなど、予想される危険な行動に注意します。
- 不安にならないよう園外保育の流れを絵や写真で時系列に並べて見せ、見通しが立つようにします。
- 空間の意識をつけるようにします。

### 関わり方のポイント

- 日頃の行動を観察し、どのようなときに集団を離れるか把握しておきます。
- 園外に出る前に約束ごとを確認しておきます。
- 出かけた先では関心が他のところにそれそうになったら、声かけをします。

### 家族との連携のポイント

- 関心が向かいそうな物、苦手な物を確認します。
- 事前にどのような場所かを保護者にも伝え、保護者と子どもと下見に行ってもらったうえで、保護者の視点での留意点を教えてもらいます。



「お水のところにはいかないよ。」

